

## 「後樂園・茗荷谷間 (2)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

後樂園駅を出て、しばらく武蔵野台地の先端を掘ったトンネルを進んだ丸ノ内線の電車は、やがて崖の下に飛び出す。



③この崖(写真では左側)は、武蔵野台地(小石川舌状台地)と神田川低地の境目の段差(段丘崖)である。丸ノ内線はその中腹付近に法面を造って、線路を敷いている。



地上から見ると、このように見える。丸ノ内線の線路を跨ぐ、陸橋から撮影した。電車は後樂園駅を出発してトンネルを出た、池袋行の電車である。よく見ると、左側の段丘崖とは逆側の、右側の集合住宅が、線路の法面よりも下に建っていることがわかる。丸ノ内線は、段丘崖の下面(低地)ではなく、段丘崖の中腹を走っているとわかる。



④しばらく進むと、線路脇にたくさんの菜の花が咲いている場所がある。地下鉄から菜の花が見える場所は、都内では珍しいだろう。乗客は一瞬の春に、目を楽ませているにちがいない。



地上から見ると、こんな場所である。菜の花の奥にサクラの樹も見える。まだ2分咲きだったが、満開になったら、素晴らしい「鉄道写真」になるだろう。

丸ノ内線はもちろん電車だが、普通のJR線や私鉄の電車のような、集電用の架線がない。それで、風景がすっきりしているのだ。架線がないので、パンタグラフ(屋根の集電装置)もない。トンネルを低くする為に、地上の第三軌条(写真中央の2つの帯)から、車輪のそばにある集電器経由で集電しているのだ。停車中の電車で観察してみしてほしい。(つづく)